



Future Report 2024

2024.01.01 - 2024.12.31

フューチャー株式会社 TSE PRIME SECTION:4722



ごあいさつ

先進テクノロジーの実装とあらゆる分野におけるノウハウの活用で 新たな分野における価値創出に挑戦する

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーは、経営戦略とIT戦略の両輪でデザインするという理念のもと、多種多様な業種・業界のお客様の未来価値を最大化させることをミッションとしています。戦略的ITをお客様に提供する「ITコンサルティング&サービス事業」と、培ってきたノウハウをアントレプレナーシップで実践する「ビジネスイノベーション事業」のシナジーにより、時代に適応した新しい付加価値を提供し変革を支援することで、グループ全体の事業拡大と自らの未来価値の向上を図っています。また、株式会社リヴァンプをはじめグループ各社の連携をより一層強化し、新たな挑戦としてヘルスケア分野にも参入するなど、ビジネスや社会における長年の課題を解決すべく努めています。

デジタルトランスフォーメーション(DX)への対応、AIやIoTの活用による省力化、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進などといった経済的かつ社会的な課題の解決に向き合うためには、先進的なテクノロジーとあらゆる分野で培われたノウハウを融合させ、新しい時代に適した価値の創出に挑戦し続けることが重要です。

ビジネスや社会の根幹にITが不可欠な今、フューチャーはあらゆる事象から発生するデータをもとに、微細な変化も可視化するリアルタイムアーキテクチャによって、経営戦略とビジネスプロセスをデザインし環境の変化への対応力を備えたシステムを実装することで企業や社会のDXを推進しています。これからも真の改革を支援するとともに、お客様のビジネスや社会の持続的な成長と発展に貢献してまいります。

2025年3月



フューチャー株式会社
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO

金丸恭文

当グループの現状及び今後の戦略について

2024年12月期の事業概況

2024年12月期のハイライト

01

連結売上高は
前期比17.8%増の
698億円

02

連結営業利益は
前期比7.1%増の
146億円

2024年12月期の連結業績は、売上高69,878百万円(前期比17.8%増)、営業利益14,667百万円(同7.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益10,322百万円(同11.9%増)となりました。

当期は、不安定な世界情勢や国内外における物価上昇継続といった経済環境の中、企業のDXや業務改革、生成AI等を利用した新たなデジタルサービスの創出など、ITを通じた経営改革が意欲的に進められました。また、恒常的な人手不足に対応するための生産性・効率性の向上、BCP(事業継続計画)の観点からの企業全体のサプライチェーンの見直し、ESG・SDGsに関連するITの活用など、あらゆる業種や領域において活発なIT投資が続いています。

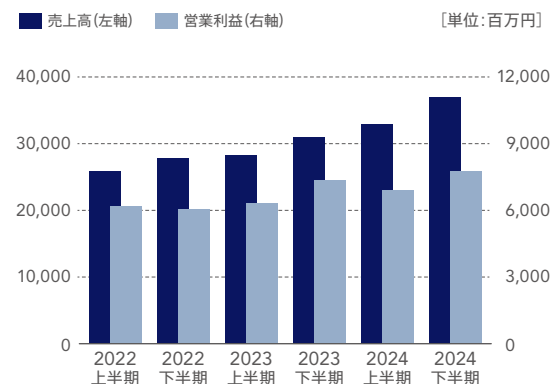
このような状況下、当社は「次世代バンキングシステム」の1行目における導入を完了させたほか、当社の中長期的な成長に資する大型プロジェクトが順調に進行した結果、増収・増益となりました。

株主還元策

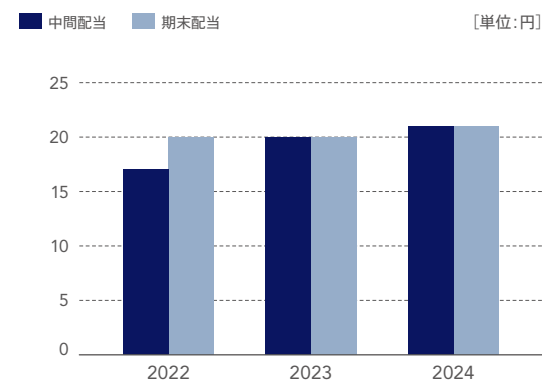
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結業績における配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2024年12月期の期末配当金については、1株当たり21円、年間配当金は42円といたしました。また、次期の配当金は1株当たり年間46円(うち中間配当23円)を予定しています。

[連結] 半期別業績推移



1株当たり配当金



Future Topics

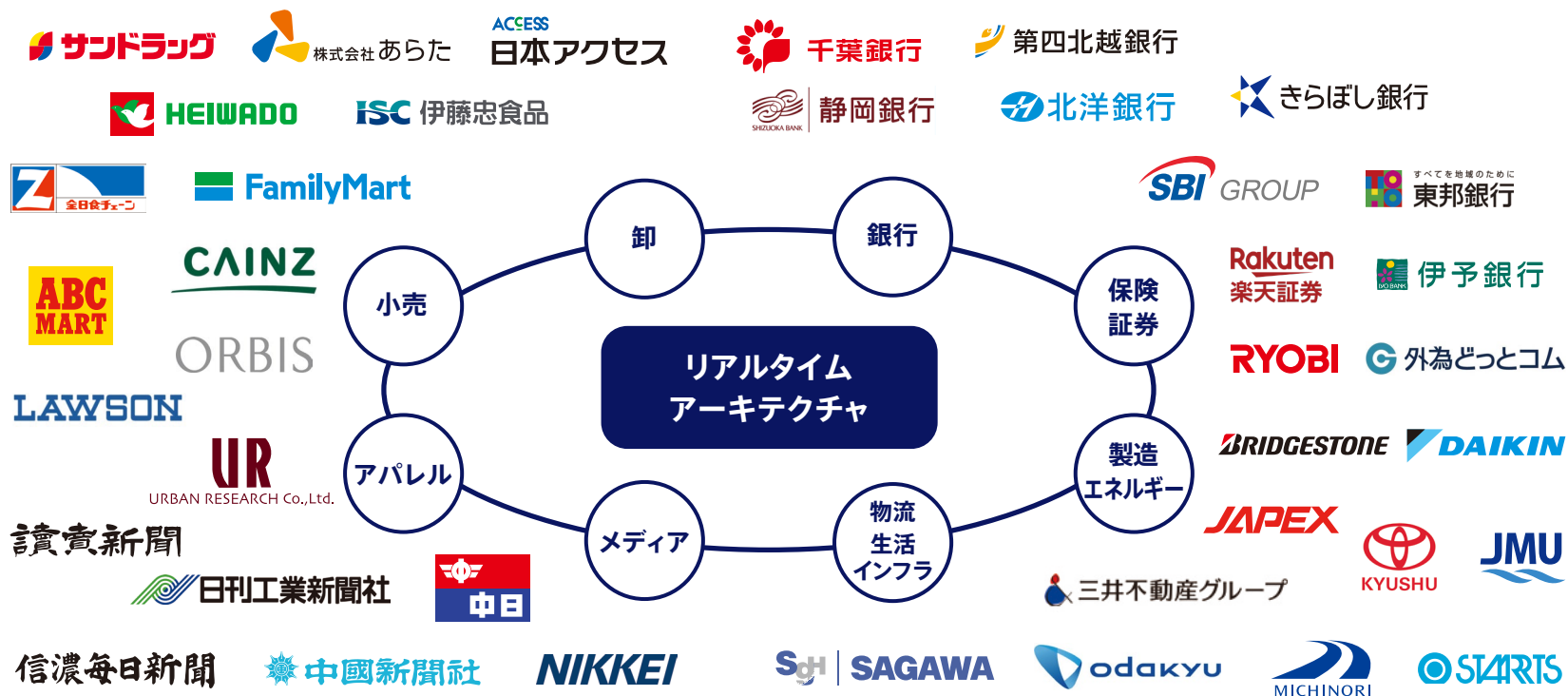
フューチャートピックス

■ お客様との長期的パートナーシップで大規模なIT基盤刷新やDXを支援

フューチャーは、ITを通じて経営改革を進める企業のニーズを的確に捉え、グループシナジーを発揮しながら、金融、物流、流通、小売、メディア、アパレルなど多種多様な業界のお客様を多面的・積極的に支援してきました。

あらゆる業種や領域において旺盛なDX投資が続く中、レガシーシステムの刷新はもとより、新たなプラットフォームを活用したデジタルファーストでの経営改革や、新たなサービスの構築を支援する案件が拡大しています。また、リヴァンプとのシナジーにより、ヘルスケア分野におけるプロジェクトの立ち上げにも成功しました。ESG・SDGsについても、自社の取組みを進めるとともに、環境対応や脱炭素化に向けたお客様の取組みを支援していきます。

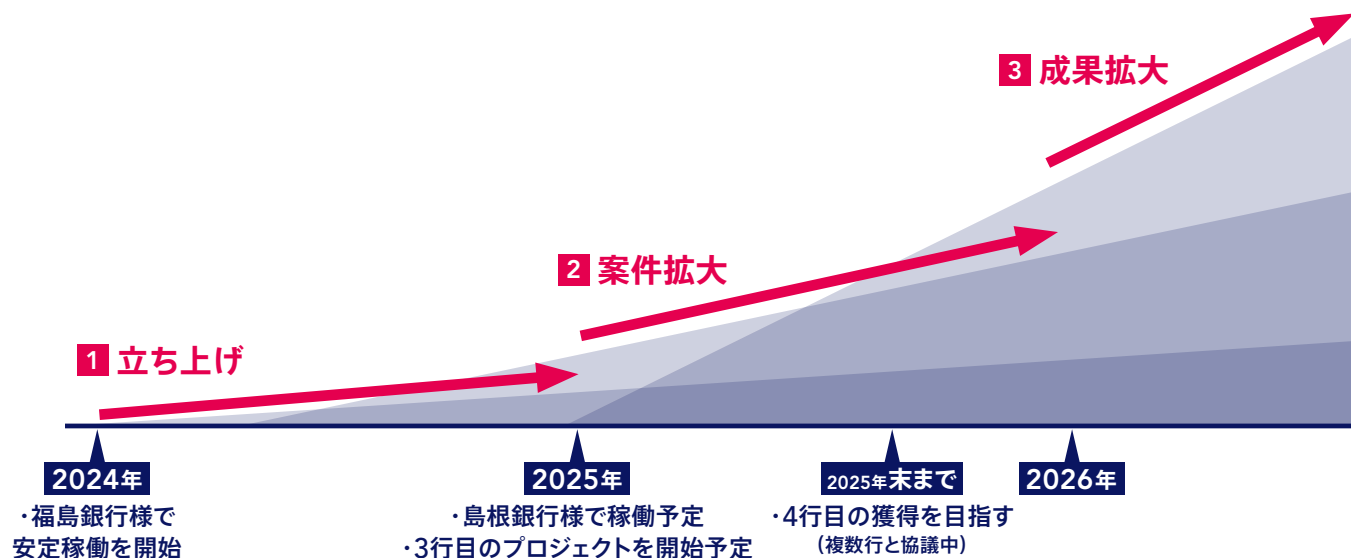
ITコンサルティング & サービス



■ 「次世代バンキングシステム」で、銀行の未来創造と地域創生に貢献

2024年7月、福島銀行様における「次世代バンキングシステム」が安定稼働を開始しました。同行で稼働していた勘定系メインフレームは、ステップ数600万の大規模システムでしたが、最新テクノロジーを活用した50万ステップのコンパクトかつ柔軟性に富んだシステムを実現しました。これにより、Fintech企業や外部サービスとの連携、顧客体験価値を高める新サービスの創出などが容易になります。

2行目となる島根銀行様では開発・テストフェーズが順調に進行しており、3行目のプロジェクトも2025年中に始動する予定です。フューチャーは、バンキングソリューションの導入拡大を通じて地域のDX化推進と地域創生に貢献していきます。



 福島銀行

 島根銀行

Next

Future Topics

フューチャートピックス

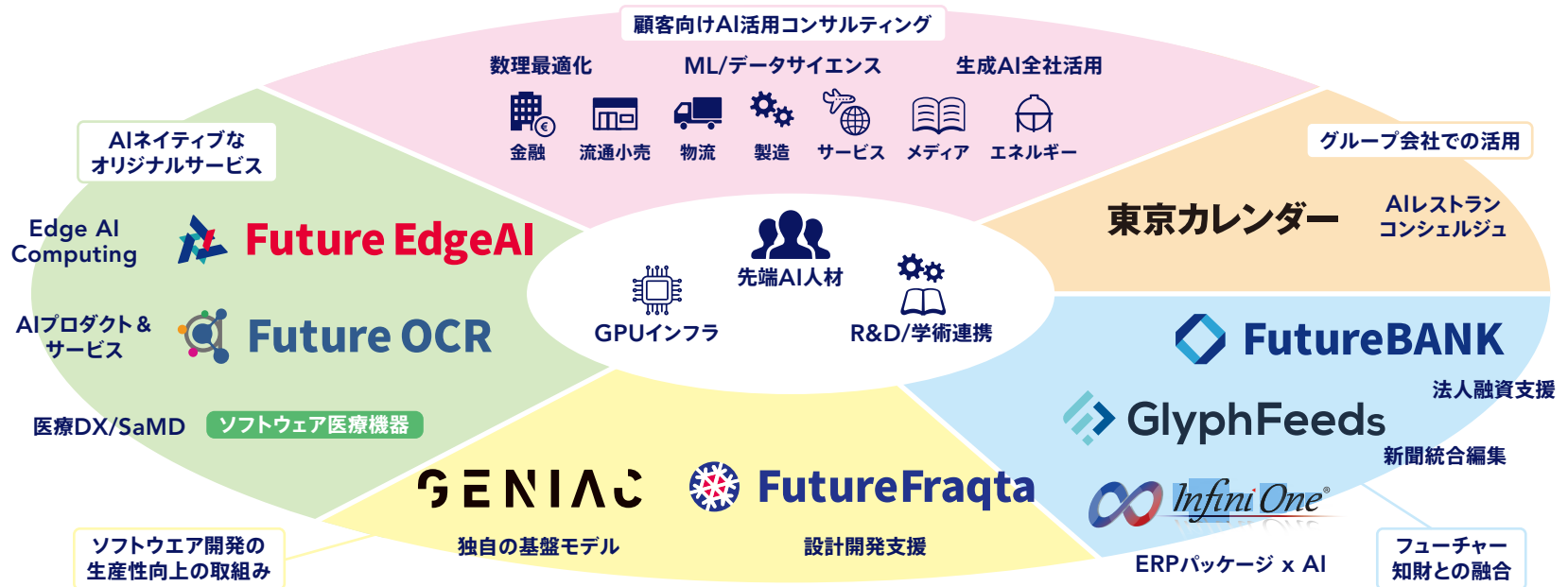
■ AIを活用した事業変革や価値創造を推進

フューチャーは国内トップレベルの先端AI人材を擁するチームを中核に、顧客向けAI活用コンサルティング、当社知財との融合、グループ会社での活用など、AIの取組みを全方面で推進しています。

顧客向けAI活用コンサルティングでは、様々な業種・業界のお客様に対して、生成AI、画像AIなど、多種多様なプロジェクトを進行中です。当社知財との融合も進んでおり、「FutureBANK」や「GlyphFeeds」においては、お客様と一体となって生成AIの活用を推進しています。また、グループ会社での活用については、東京カレンダーにおいてAIチャットベースのレストラン予約サービスを開始しました。

さらには、経済産業省が実施する国内生成AIの開発力強化プロジェクト「GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge)」において、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募した「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ポスト5G情報通信システムの開発(助成)」に採択され、当社独自の国産生成AIモデルの開発に着手したほか、オリジナルサービスとしてヘルスケア分野への活用も進め、新たな価値創造に取り組んでいます。

ITコンサルティング & サービス



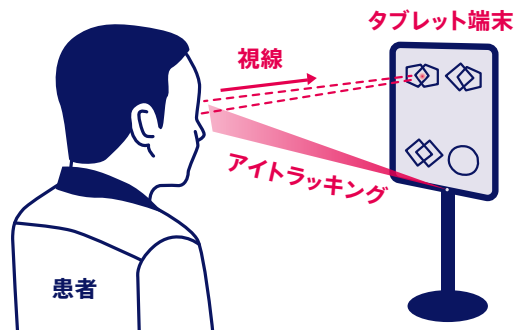
■ ヘルスケア分野へ進出、SaMD市場の活性化に貢献

SaMD (Software as Medical Device: プログラム医療機器) は、従来型のハードウェア主体の医療機器ではなく、AIやソフトウェアによって進化した医療機器です。フューチャーはSaMDの分野で新たな挑戦を始め、視線検出AIによる認知症診療支援検査アプリ「ミレボ[®]」が日本で初めて薬事の承認を取得しました。これにより従来は30分以上かかっていた認知症の診断を3分程度にまで短縮することが可能になり、認知症の審査や診療の支援に大きな効果をもたらすことが期待されています。また、「ミレボ[®]」の開発で得られたSaMDに関する知見を、医療機器メーカーや製薬会社向けのコンサルティングサービスとして提供し始めました。

さらには、国が進めている医療DXの主要政策「診療報酬改定DX」のシステム開発プロジェクトも受託しており、診療報酬改定時に膨大な負担がかかっていた医療会計システムベンダーの作業負荷と、医療機関のシステム改修コストの大幅な低減に貢献していきます。

認知症診療支援検査アプリ

- 認知症診療支援に用いる検査機器ソフトウェア
「ミレボ[®]」が日本で初めて承認され、1月14日より販売を開始
- アイトラッキングデータを用いて約3分で検査



■ リヴァンプとの経営統合によるシナジーを最大化

ITコンサルティング&サービス事業の強化に向け、フューチャーは2024年にリヴァンプとの経営統合を行い、「グループガバナンス」「人材」「品質」を軸にシナジーの最大化を図ってきました。エンタープライズ企業のDXを支援するフューチャーの強みと、ハンズオン経営を支援するリヴァンプの強みを融合し、さらに両者の持つ顧客基盤を活用することで、総合商社や大手飲料メーカー、大手製薬メーカーなどのお客様との新たなプロジェクトの立ち上げに成功しています。今後も中長期のパートナーとしてソリューションやサービスを提供することで、お客様に変革をもたらし、フューチャーの成長につなげていきます。

フューチャー × リヴァンプのシナジー

エンタープライズ企業のDX

FUTURE

- ・ 経営・IT戦略の一体デザイン
- ・ 業務プロセス改革
- ・ 研究開発、知財・特許

ハンズオン経営支援

REVAMP

- ・ 現場主義と顧客志向
- ・ 経営実務、経営企画、DXを同時サポート
- ・ マーケティング、クリエイティブ支援

協業実績

- ・ 総合商社
- ・ 金融コングロマリット
- ・ 大手製薬メーカー
- ・ 大手飲料メーカー
- ・ 大手小売
- ・ 大手運輸 ...etc

特集

フューチャーグループ全体の 2023年度の温室効果ガス排出量を開示

自ら開発したESGマネジメントプラットフォーム「Kkuon」を用いて算出を効率化

フューチャーは、グループ企業であるワイ・ディ・シー（2025年1月よりフューチャーアーティザンに社名変更）が開発したサプライチェーン全体の排出量を効率的に算出できるESGマネジメントプラットフォーム「Kkuon（ケークオン）」^{※1}を活用して、グループ全体の2023年度の温室効果ガス（GHG）の排出量を算出し、2024年9月に開示しました。

当社グループは、主要事業であるITコンサルティングで培ってきた知見とノウハウを活かし、気候関連財務情報開示タスクフォース^{※2}の提言に基づき、Scope1、Scope2、Scope3^{※3}の分類に準拠したGHG排出量を算出しています。2023年度のグループ全体の排出量は企業の成長や社員数の増加、事業の拡大などに伴い14,808t-CO₂e^{※4}（前年度比7.2%増）と増加しましたが、社員1人当たりの排出量は5.0t-CO₂e（前年度比3.4%減）と減少しました。

今後もScope単位、組織・拠点単位での排出量管理やデータ分析が可能な「Kkuon」を活用し、GHG排出量削減に向けたボトルネックの発見や削減方法の策定に取り組んでいきます。また、気候変動への対応を重要な責務と捉え、自らの企業活動に伴う環境負荷の軽減に加え、最新テクノロジーを活用した環境負荷の低いシステムやソリューションの提供、コンサルティングサービスなどを通じて経済社会全体の環境対応に貢献します。さらに、このような取組みの一環として、「Kkuon」の展開によって、各企業による経済全体のGHG排出量削減への貢献を示す「Scope4」の取組みを支援し、企業のサステナブルな活動が社会で適正に評価される環境をお客様と共創していきます。

フューチャーグループGHG排出量 2023年度

区分	排出量 (t-CO ₂ e)
Scope1	277
Scope2	2,012
Scope3	12,519
合計	14,808

※1 「Kkuon」は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）の100%出資により設立された株式会社AIST Solutionsの算出システムとして認定されています。「Kkuon」上で当社が提供するライフサイクルアセスメントを支援するための世界最大規模のデータベース「AIST-IDEA」を用いて、GHG排出量を算出することが可能です。

※2 金融安定理事会（Financial Stability Board、FSB）により設立された、企業の気候変動に関する情報開示及び金融機関の対応を検討するタスクフォース。

※3 Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出、Scope2：他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3:Scope1、Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）。環境省サイト「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」より

※4 2023年度のGHG排出量の詳細はこちらをご覧ください。
https://www.future.co.jp/sustainability/PDF/FutureGroup_GHGemissions_FY2023.pdf

フューチャーの業績・財務状況

■ 連結貸借対照表 -決算のポイント-

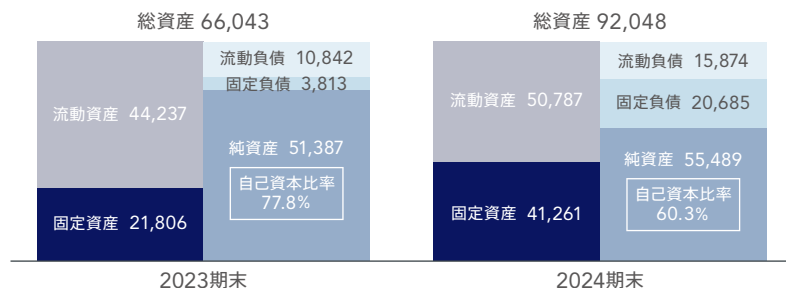
- ▶ 総資産は、現金及び預金、のれんの増加等により、前期末比26,004百万円増加
- ▶ 負債は、長期借入金の増加等により、前期末比21,902百万円増加
- ▶ 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比4,102百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2023年12月31日現在	当連結会計年度末 2024年12月31日現在
流動資産	44,237	50,787
固定資産	21,806	41,261
流動負債	10,842	15,874
固定負債	3,813	20,685
純資産	51,387	55,489
総資産	66,043	92,048

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

■ 連結損益計算書 -決算のポイント-

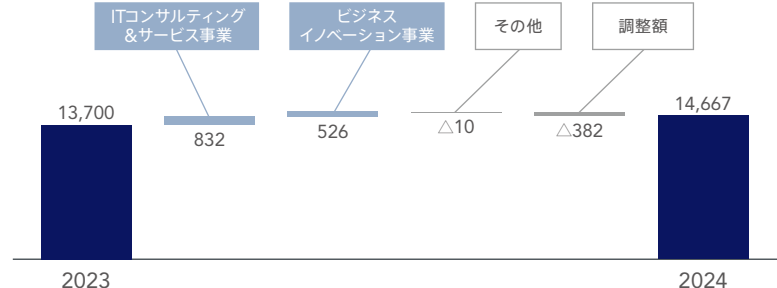
- ▶ ITコンサルティング&サービス事業及び、ビジネスイノベーション事業は増収・増益となり、全体の売上高及び営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益は増収増益となりました。

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2023年 1月 1日 至2023年12月31日	当連結会計年度 自2024年 1月 1日 至2024年12月31日
売上高	59,324	69,878
売上総利益	28,807	33,700
販売費及び一般管理費	15,106	19,033
営業利益	13,700	14,667
経常利益	14,087	14,951
親会社株主に帰属する当期純利益	9,221	10,322

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 —決算のポイント—

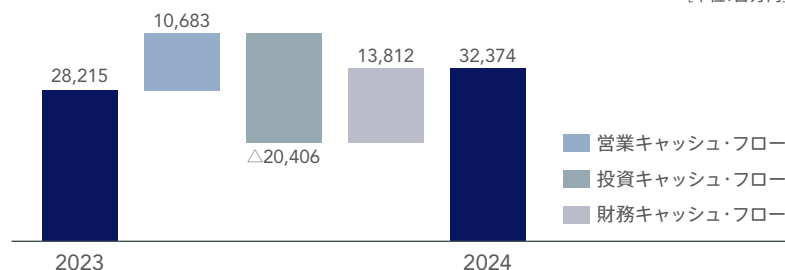
- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等により、10,683百万円の収入
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出等により、20,406百万円の支出

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2023年 1月 1日 至2023年12月31日	当連結会計年度 自2024年 1月 1日 至2024年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,568	10,683
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,029	△20,406
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,898	13,812
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	69
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	663	4,159
現金及び現金同等物の期首残高	27,552	28,215
現金及び現金同等物の期末残高	28,215	32,374

キャッシュ・フローの推移

[単位:百万円]

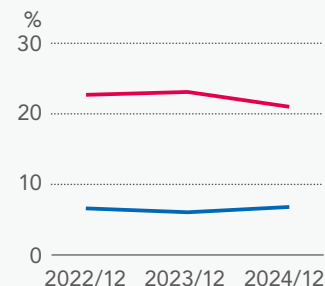


※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

■ フューチャーの投資指標

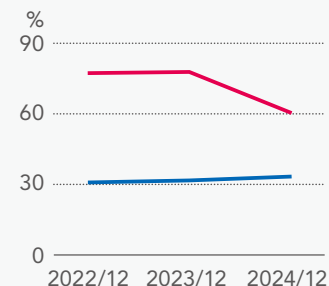
売上高営業利益率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均*



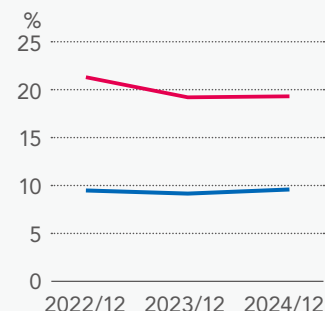
自己資本比率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均*



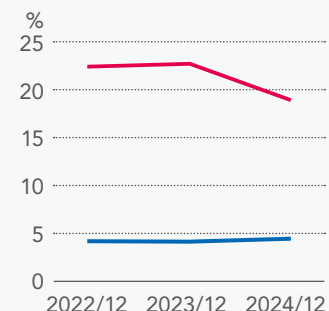
自己資本当期純利益率(ROE)

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均*



総資産経常利益率(ROA)

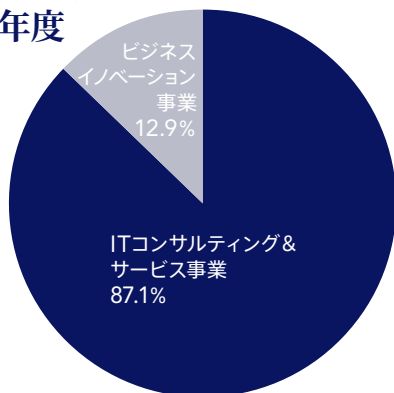
— 当社(連結) — 東証プライム市場平均*



※2022年3月期、2023年3月期、2024年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証プライム市場上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。
(出典:東京証券取引所統計資料)

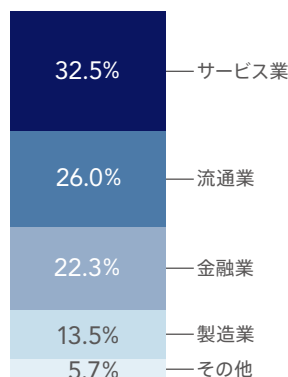
フューチャーのセグメント別業績・戦略

セグメント別売上高構成比 2024年度

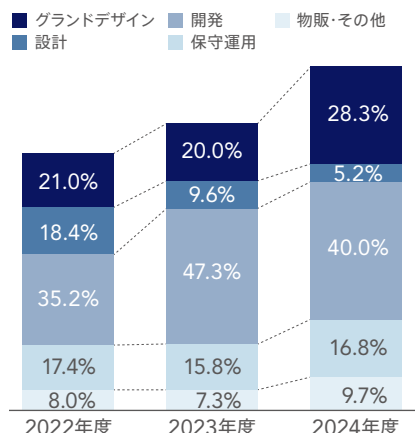


ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比※1

2024年度



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移※2



※1 その他は官公庁・地方公共団体等への売上高となります。

※2 物販・その他はIT機材の選定・調達・販売のほか、ライセンス販売による売上高等となります。

2024 レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

- ▶ フューチャーアーキテクトは、「次世代バンキングシステム」が1行目で安定稼働を開始し、2行目の開発・テストフェーズが順調に進行しました。また、メディア業界やアパレル業界など多くのお客様のDX支援も堅調に推移したことから増収・増益となりました。
- ▶ フューチャーインスペースは、定常的な保守運用サービスに加え、既存のお客様のシステム基盤更改やクラウド移行などが好調に推移し、増収・増益となりました。
- ▶ FutureOneは、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の受注が拡大し、増収・増益となりました。
- ▶ フューチャーアーティザン※1は、「Smart Factory」等構築の売上が伸びたものの、大型のコンサルティング案件のピークアウトなどにより減収・減益となりました。
- ▶ フューチャーセキュアウェイブ※2は、従来のサイバー防御演習等に加え、医療分野のサービスを新たに開始したものの、セキュリティ関連商材の販売減少により減収・減益となりました。
- ▶ 新規連結のリヴァンプは、経営マーケティング事業においてヘルスケア分野の案件を新規受注しました。同事業とDX事業はともに計画どおりの業績となりました。

※1 株式会社ワイ・ディ・シーは、2025年1月、フューチャーアーティザン株式会社に社名を変更しました。

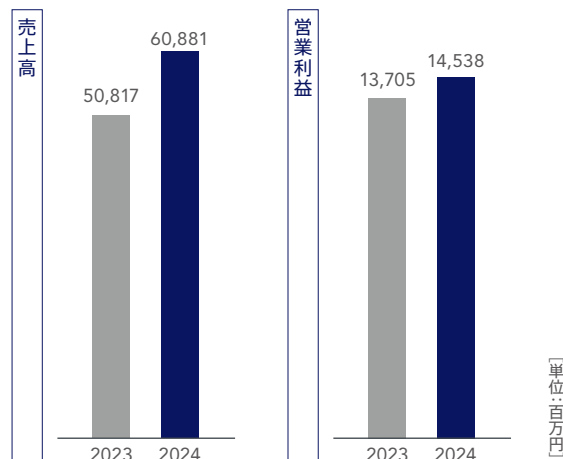
※2 株式会社ディアイティは、子会社であるサイバーソリューション株式会社と合併し、2025年1月、フューチャーセキュアウェイブ株式会社に社名を変更しました。

ビジネスイノベーション事業

- ▶ YOCABITOは、アウトドア商品の市場が依然厳しい競争環境にある中、事業構造の改革に努めたものの、減収・前期に続き赤字となりました。
- ▶ 東京カレンダーは、広告売上及び「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことにより、増収・増益となりました。
- ▶ ライブリッツは、プロ野球球団をはじめとする各種スポーツ団体や建設業、テーマパークなどお客様のIT投資増加などにより増収したものの、esportsなど新規事業への積極的な投資により営業利益は前期並みとなりました。
- ▶ キュリオシティは、海外ラグジュアリーブランドの大型ストアデザインの順調な進捗などを背景に、増収・増益となりました。

2024 実績

ITコンサルティング&サービス事業

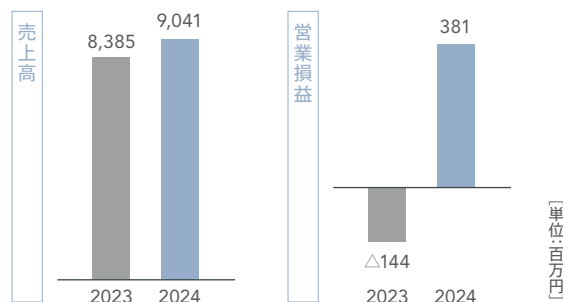


今後の見通し

ITコンサルティング&サービス事業

- ▶ フューチャーアーキテクトは、グループ各社との協業を一層推進し、経営・ITコンサルティングを通じてお客様の経営課題に伴走して取り組む体制を強化しました。また、「次世代バンキングシステム」をはじめ業界における長年の課題解決に貢献するITソリューションの提供を通じて、顧客基盤の強化に努めていきます。
- ▶ フューチャーインスペースは、複数の大型プロジェクトの安定的な推進に向けて、さらなる開発品質向上と人材の採用・育成に取り組めます。
- ▶ FutureOneは、パッケージソフトウェア「InfiniOne」の営業展開を強化するとともに、製造から販売までをカバーするトータルソリューションを提供することで収益の拡大を図ります。
- ▶ フューチャーアーティザンは、製造業向けDXコンサルティングと「Smart Factory」構築に加え、PLM(Product Lifecycle Management)への本格参入によりビジネスの拡大を狙います。
- ▶ フューチャーセキュアウェイブは、危機管理対応とセキュリティ診断サービスに加え、運用も含めたセキュリティライフサイクルに対応したソリューションを提供します。
- ▶ リヴァンプは、経営マーケティング事業における案件の着実な遂行に加え、DX事業における既存顧客のグローバル展開を支援する案件の拡大を目指します。

ビジネスイノベーション事業



ビジネスイノベーション事業

- ▶ YOCABITOは、今後の新たな成長の柱とすべくプライベートブランドの強化及びリニューアルに注力するなど、引き続き事業構造の転換と業績改善に努めます。
- ▶ 東京カレンダーは、月刊誌・WEBメディア・SNS等のチャンネル別にコンテンツを最適化するとともに、AIの活用などによりサービスの利便性を向上させ、さらなる成長を目指します。
- ▶ ライブリッツは、「Fastball」「FastBiz」などのITテクノロジーを活用したスポーツ振興、「デジタル野球教室」などの地域振興事業を通じて、スポーツ界や一次産業におけるDX推進に努めます。
- ▶ キュリオシティは、高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインに加え、世界的ブランドのストアデザインをお客様の世界展開に合わせて継続的に受注してまいります。

会社概要(2024年12月31日現在)

会社名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設立	1989年11月28日
資本金	40億円
従業員数	3,499名(連結)

主要な連結子会社の状況(2024年12月31日現在)

- フューチャーアーキテクト株式会社
- フューチャーインスペース株式会社
- FutureOne株式会社
- 株式会社リヴァンプ
- 株式会社ワイ・ディ・シー
- 株式会社ディアイティ
- 株式会社YOCABITO
- 東京カレンダー株式会社
- ライブリッツ株式会社
- 株式会社キュリオシティ

他12社

役員(2025年3月25日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	石橋 国人
取締役	神宮 由紀
取締役	谷口 友彦
取締役CTO	齋藤 洋平
取締役	山岡 浩巳
取締役(常勤監査等委員)	市原 令之
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	榊原 美紀
取締役(監査等委員)	竹内 明日香
取締役(監査等委員)	西浦 由希子

主な事業所(2024年12月31日現在)

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

株式の状況 (2024年12月31日現在)

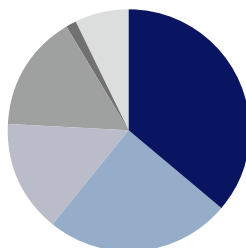
発行可能株式総数 378,752,000株
発行済株式の総数 95,328,000株
株主数 6,739名

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キーウェスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸 恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,417	8.3
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	4,391	4.9
S Gホールディングス株式会社	4,000	4.5
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,808	2.0
フューチャー従業員持株会	1,302	1.4
石橋 国人	1,236	1.3
モリヤマ ヒロシ	1,164	1.3
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,055	1.1

※1 当社は、自己株式を6,700千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。
※2 持株比率は自己株式(6,700千株)を控除して計算しています。

株式の所有者別状況



● その他国内法人	34,493 千株	36.18 %
● 個人・その他	23,565 千株	24.72 %
● 金融機関	14,878 千株	15.61 %
● 外国人	14,315 千株	15.02 %
● 金融商品取引業者	1,374 千株	1.44 %
● 自己株式	6,700 千株	7.03 %

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主メモ

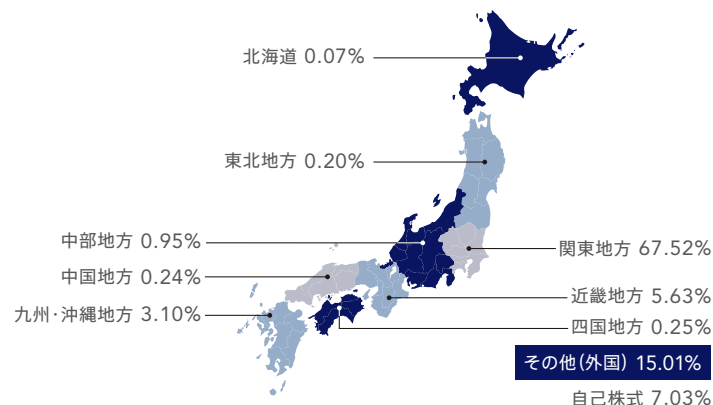
決算期 12月31日 期末配当基準日 12月31日
定時株主総会 3月 中間配当基準日 6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
(連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル:0120-782-031
ホームページ:

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告掲載URL https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/
ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性があります。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report 2024

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<https://www.future.co.jp>

表紙写真: ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントするリーグH（日本ハンドボールリーグより名称変更）所属チームです。